

家庭科の男女共修をすすめる会

会報

'81 夏

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11
婦選会館内
〒151

発行 一九八一年五月三〇日

決 議

私たちは「婦人に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」を日本政府が早急に批准することを望みます。

批准にあたっては、条約の精神を十分に尊重し、すべての適当な方法によって差別をなくす努力をしなければなりません。

中学校「技術・家庭」の男女別の学習領域指定、高等学校「家庭一般」の女子のみ必修は条約の基本精神に反し、第十条(b) (同一の教育課程)、(c) (男女の役割についての定型化された概念の撤廃) に抵触します。

私たちはこれを直ちに改め、「技術・家庭」、「家庭一般」の男女共修(必修科目として、男女で学ぶにふさわしい内容を男女いっしょに学習する)を実施することを要求します。

一九八一年四月四日

家庭科の男女共修をすすめる会(81年度総会で採択)

集会のおしらせ

テーマ

家庭科共修、世界では?

調査結果報告

報告者

福井大学教授木村温美さん

とき・七月四日(土) 午後一時半～四時半

ところ・婦選会館(電話〇三・三七〇・〇三三八)

文部省は「家庭科の女子のみ必修は差別撤廃条約には抵触しないと思うが、各国の対応

もくじ

決議	(1)
集会のおしらせ	(1)
一九八一年度総会報告	(2)
決議文を文部省へ	(8)
「こちら情報部」に出演して	(8)
国際婦人年の決議を実現するための	(9)
連絡会から	(9)
教組に対するアンケートその後	(10)
テキストは改善されたが教科書は	(11)
男女平等教育委員会の設置を	(12)
日本弁護士連合会の意見書について	(13)
家庭科共修をめぐる	(14)
奈良県へ要望書	(14)
世話人会報告	(15)
企画推進会議意見書・行動プログラム	(16)
文部大臣の国会答弁から	(16)
PTA全国大会でアピールを	(16)
お願い	(16)

のしかたを参考にして検討する」と言っています。私たちも調査結果を見て考えましょう。(6ページの間報告参照)

参加費・一般三〇〇円 会員二〇〇円

四月四日(土) 午後一時半～四時半
婦選会館会議室で

一、報告

(概要)

樋口 恵子

二年経っても三年経っても忘れられないよ

まれる理由は十分ありました。

ました。

一人の女のエネルギーが自分の人生設計に

テレビのレポートによると、カップヌードルが差し入れられたところ、彼はどうやって食べたらいいかわからなかったそうです。肌着が差し入れられたときも、着かえることはできても汚れた肌着をどうやって洗うのかわからず、同房の人に洗ってくれと頼んで「いい年をして」と叱られたそうです。このことが一番問題にされなければいけないと思いました。

両親の夫婦仲の悪さも彼にとって気の毒で

おばあちゃんたちは、性別分業夫婦として

しかしおばあちゃんは淋しそうでした。

傷つけるものでした。

たのではないかと思います

護を問題にしていることは間違っていない。

あの事件を最後のぎりぎりのところで防げ

えられていなかったからだと思います。

面でのみ問題にされ過ぎていると思います。

この事件は、戦前の良妻賢母教育を受けた

に閉じこめられているからです。

家庭は確かに昔よりおかしくなっています

いうことを結論として申しあげます

二、議 事

一九八〇年度の活動のまとめと決算、一九八一年度運動方針と予算、世話人については、全く異議なく報告、提案通り承認されました。

一九八〇年度活動のまとめ

報告 和田 典子

- 〔大きな項目だけ掲載。詳しくは会報「80年春号」からこの号まで参照。〕
1. 国連婦人の10年関係ⅡNGOフォーラム、日本大会実行委員会等に参加した。
 2. 組織の拡大強化のためにⅡちらしや会員名簿などを作成、会報で各地のたよりを紹介するなどして努力、現在会員五四五名。
 3. 世論に訴え理解を得るためにⅡパンフの紹介や販売に努力、マスコミや他団体にも働きかけた。
 4. 教科書に関してⅡ中学新教科書を検討、高校新教科書の執筆に参加した。
 5. 共修を具体的にすすめるためにⅡ公開授業を参観するなど、内容研究につとめた。
 6. 行政機関等への働きかけⅡ文部省、地方自治体、国会等に要望を出し、教組委員長

対象にアンケートを実施。

7. 財政基盤の確立のためにⅡ滞納会員を整理、会費納入促進に努力、カンパを訴えた。

一九八一年度運動方針

提案 石川 由紀

●基本方針

全国の中学・高校で家庭科の男女共修を實現させることを目的とする。

●具体的な活動

- 一、差別撤廃条約批准に向けてⅡ、男女共修を教育課程に盛り込ませるために、あらゆる運動をする。
- ロ、日本大会の決議を實現させる運動に協力する。
- ハ、国連婦人の十年推進議員連盟に働きかける。
- ニ、組織の拡大、強化
- イ、新会員百名を目標に、会員の拡大に努める。
- ロ、各集会で配るなど、ちらしを活用する。
- ハ、世話人を中心に地域で交流の場をもつ。
- ニ、世話人会を定期的に開催し、記録を残す。
- ホ、会報を定期（年四回）に刊行する。

- 三、世論に訴え、理解を深めるためにⅡ、パンフレットを増刷し、積極的に販売する。

ロ、新しい本の刊行に取り組む。

ハ、集会を開催する。

ニ、他団体の集会でアピールする。会員が所属する他団体にも働きかける。

ホ、マスコミ、ミニコミに積極的に働きかける。

ヘ、各地の婦人情報センター等と情報を交換する。

四、共修を具体的にすすめるために

イ、男女共修に役立つ資料や教科書を紹介する。

ロ、共修家庭科の授業参観を行う。

五、現状把握

イ、中学校の共修状況について、地域毎に調査をすすめる。

ロ、各国の家庭科教育について調査する。

六、行政への働きかけ

イ、文部省、総理府等に必要に応じて働きかける。

ロ、地方自治体に必要に応じて働きかける。

七、財政基盤の確立

イ、会費の滞納者をなくすように努める。

ロ、カンパを積極的に集める。

一九八〇年度決算

収入の部	
前年度繰越金	157,500
会費	749,000
カンパ	86,870
雑収入 (集会参加費・会報売上等)	67,840
計	1,061,210
支出の部	
集会費	58,940
会報	344,940
維持費	223,600
ちらし(4,000枚)	17,850
名簿	75,400
中間年関連行事	30,737
教組アンケート	15,360
婦選会館設備への寄附	5,000
雑費	95,820
計	867,659
翌年度繰越金	193,551

一九八一年度予算

提案 青山 和世

収入の部	
'80年度の繰り越し金	193,551
会費	1,000,000
計	1,193,551
支出の部	
集会 (会場費・宣伝・謝礼)	132,000
会報 (印刷・運搬・発送)	474,000
維持費 (事務所代アルバイト)	309,800
世話人会連絡費	21,000
調査費	100,000
日本大会連絡会分担金	10,000
雑費	40,000
予備費	106,951
計	1,193,551

△パンフレット会計▽

	売上げ	支払い	残
黄	180,774		
赤	33,536		
ピンク	314,164		
オレンジ	323,900	274,000	
計	822,374	274,000	548,374
なぜ女だけ	81,600	54,400	27,200

報告 馬場 洋子

一九八一年度世話人

市川房枝さん、神田百合子さんが亡くなられたことはたいへん残念ですが、新しい方の参加を得てがんばって行きたいと思ひます。

提案 半田たつ子

決議

提案 梶谷 典子

青木千枝子 (横浜)	木村 温美 (福井)	立山ちづ子 (熊本県)	森 陽子 (大阪)
青山 和世 (東京)	駒野 陽子 (東京)	中嶋 里美 (所沢)	八島 紀子 (東京)
石川 由紀 (東京)	斎藤 節子 (帯広)	中村美千子 (群馬県)	和田 典子 (東京)
大原八重子 (新潟県)	佐藤 慶子 (東京)	橋本登志子 (岐阜)	渡辺 宏介 (枚方)
小野塚サチ子 (長岡)	佐藤美枝子 (長野県)	馬場 洋子 (東京)	
香川 敦子 (姫路)	嶋田 道子 (東京)	半田たつ子 (東京)	以上25名
梶谷 典子 (東京)	薄 タカ子 (福岡県)	樋口 恵子 (東京)	

外国の家庭科についての調査

中間報告 木村 温美

◇12月17日付で世界の25ヶ国の文部省と、48ヶ国の家政学会に調査票を送付、4月1日現在文部省9、家政学会12から回答があった。

◇調査項目は――

- 普通教育の中で家庭科教育が行われているか
- 小・中・高の男女に対して必修か選択か
- 普通教育の中の家庭科カリキュラムの最高責任機関はどこか
- 教材はどこが決めらるか
- 公的に共修が保障されているか
- 差別撤廃条約に署名したか、署名した場合それによって大きな変化が起ったか
- 共学は政府、民間から大事だと思われているか
- 家庭科共修をカリキュラムに盛りこむことにどんな困難があるか
- 家庭科教育実施に関する諸法令その他の公的文書……等。

◇ユネスコの調査なども含めてまとめる予定。

(木村さんは福井から参加してくださいました)

三、話し合い

議事のあとを受けて、参加者全員の発言によって話し合いがすすめられました。ここではその一部をご紹介します。

▽ベビーホテルの事故について調査しているが、保育関係の法律の条文の改正も必要だと思ふ。「措置」という考え方が問題ではないだろうか。事故の責任が預けた母親にもあるように言われるのは責任転嫁ではないか。男性保育者

▽娘と息子と同じように育てたいと思つているが、息子は高校に入ると「こんなに勉強するんだから家事なんかしてられない」「よその男の子はしないのに、この家に生まれたばかりにこんなことをさせられる」というようになった。家だけでがんばってもだめだと気がついて、この運動に参加するようになった主婦

▽十年前の教育課程改訂の時に男子も被服と食物を選択できるようにしたが、男子は生活とは結びつけずにものをつくることへの興味だけで選択しているようだ。やはり男子にも「家庭一般」をやらせなければということで、女子組合員が中心になって学校の中で運動し

ているが、男女の体育の必修単位の差が大き

なネックになっている。「家庭一般」の共修で全体的にレベルダウンになると考えて反対する人もある。58年から59年から、何とか二単位だけでも男女必修にしようとしている。高校地理教師

▽保守的な町で、通学バスまで「男バス」と「女バス」に分れているくらいだが、何とかして男子がいつ入って来てもいいような家庭科をやって行きたいと思つていふ。漁業の町だから合成洗剤追放運動などには関心が高いが、男の子はよくわかっていない。できるだけ早く男子に教えたい。静岡県西伊豆の高校家庭科教師

▽以前は共修運動にかかわろうという気持はなかった。ゆかたを縫うのを共修にするなんてどういふことなんだろうと思つていたのだが、共修の理念について和田先生のお話を伺ってこれなら賛同できると思ひ、参加するようになった。家庭科という料理裁縫のことだと思つていふ人が多いので、そういう人たちの意識改革から始めたいと思ふ。働く母親から家庭科は人間関係を教えるものだと思ひ、たいせつなものなんだと思つた。中学二年生

▽全面共修を実施しようとしたが、新しくみ

文部省に対しては、これまでも、会、独自に、あるいは他団体といっしょに働きかけを続けて来ましたが、年度の初めにあたつて、差別撤廃条約批准に関して決議文を出すことにしました。

討論の結果、一部修正して一ページの通り採択されました。

議論になつたのは「中学、高校ともにただちに必修にすべきか」という点で、「さしあたって義務教育から固めた方がよい。中学は共修、高校は男子の履修をふやせ」という要求にしたほうがいいのではないか」という意見が出ました。

結局「運動は原則論で通すべき」「教育によって男女の役割を変えるためには男女必修でなければ」という意見が強く、この部分は中学と高校の順序を逆にすることで、考え方は変えないことになりました。

「今までの内容のままで共修にするのだと誤解されては困る」という意見も強かつたので、「男女で学ぶにふさわしい内容」ということばを入れることにしました。

木村温美さんの感想から

出席者が熱心なこと、また在京の世話人の方々の熱意と準備のよさには敬服しました。途中から一人、二人と入ってくる人があり、皆さん忙がしい中出来る限りの都合をつけて参加しておられる様子をじかに感じました。総会に出て熱気にじかにふれると、自分も頑張らなくちゃという気持ちを新しくします。今度会合に出るときはまわりの推でも声をかけて、一人でも参加者、共鳴者をふやしたいと思ひました。

えた若い先生が自信がないというので、二年全面共修、三年は三時間中一時間だけ共修と決つた。こどもはすなおについて来るので、こどもを通して親を教育して行きたいと思つていふ。男性の教師は今ではかなり理解するようになって来ている。やはり時間をかけることが必要だ。市川先生の「運動は地道にやって行くもの」ということばが印象に残つていふが、それよりほかにはなからうか。中学家庭科教師

司会 八島 紀子
記録 梶谷 典子

総会のあとで

決議文を文部省へ

八島 紀子

四月六日（月曜日）、四日の総会で決議された文を持ち、中嶋里美さんと文部省の職業教育課を訪ねました。

午後一時からわずかの時間でしたが、課長の中村さんに、総会で樋口さんが話された青少年の暴力は伝統的な性役割の固定化に原因があり、現在の青少年は自分自身の身の回りの整理ができず、生きていくための知恵がついていない事等を話しました。又、昨年政府が署名した「性差別撤廃条約」の上からも、共修は実現されるべきものであると強く訴えました。が、中村さんは、以前から共修の会のこととは知っていると云いつつ、積極的に共修を進める態度を見せず、私たちはがっかりしてしまいました。

共修を実現するためには、もっと強力に国会議員へ働きかけたり、現場の声を大きくして文部省を動かしていかなければと思いました。

「こちら情報部」に出演して

樋口 恵子

「六年の男子ですが、家庭科があります。ぼくは不きょうで家庭科は苦手だし、男子はやって何の役にも立たないと思います。なぜ男子も家庭科をやるのですか。先生はどう思いますか」

総会で紹介したNHKの「こちら情報部」なんでも相談に寄せられたこの葉書。レギュラーの回答者とは別に、この質問の回答者として特別出演するようにとの話があったので行って来ました。小中学生のみならず、都会では母親、地方へ行くと父親も結構帰宅が早いので子どもといっしょに見ている番組だそうです。はり切って答えたものの、なにせ一分半という制限時間内のことですから、これまでの会の活動の趣旨に沿ったことがどれだけ伝わったか、あんまり自信がありません。

この質問は、一通だけでなく、ほかにも同じ趣旨のものがやはり男の子からもう一通あ

りました。なんだか質問者の家庭の情景が目に見え、外で働き家では休息だけしている父。それなら不得手なことをやって、将来「何の役にも立たない」と思い込んでしまうのも無理もない家庭の風景。かつて「男の子が家事をするなんて、風景としてイヤですね」といった女性がいましたが、私たちの活動は男女がともにいてともに働く風景を「こころよい」ものとして定着させていく経過だと思いました。

こんな質問に歯がゆい思いをしつつ、嬉しいお便りも頂戴しました。総会に参加した南足柄の遠藤さんから出演に間に合うよう速達で「家庭科は人間のくらしをよりよくするために学ぶ」「自分のことは自分でするのがあたりまえ」「だれかがいつもやってくれるわけではない。一人でも生きられる自立の力をつける教育」など、思うところを箇条書きにして送って下さいました。一人の考えではなく、お友だちと話し合った結果とのこと、一層心強く感じました。知恵をお寄せ下さった遠藤さんはじめ皆様ありがとうございます。こういう話合いと認識をこれからもあきすあきす続けたいと思います。

国際婦人年の決議を実現するための連絡会から

和田 典子

① 組織について

代表者はおかず世話人制とし、大羽綾子、鍛冶千鶴子、中村紀伊の三氏に決定しました。事務局長山口みつ子氏、会費は年間一万円。

② 日本大会記録について

大会報告、経過、75年以降のわたしたちの歩み、参考資料など豊富な内容で一四〇頁、A5版、七〇〇円、送料二〇〇円。御申込みは婦人会館内へ。〇三・三七〇・〇二三八。

③ 請願署名の提出

日本大会当日あつめられた、差別撤廃条約批准に関する請願署名は、国会に提出するため、この条約審議にあたる衆参の外務委員ならびに全婦人議員に紹介議員になって頂くよう参加団体が手わけして三月中旬に依頼、提出。

④ 2/17に発表された「国連婦人の十年後半期にむけて——婦人問題企画推進会議意見——」について

起草責任者西清子氏より概要を伺い、政府の「国内行動計画後半期プログラム策定にあたっての申入れ」を行いました（3/11附）。

この要望書をまとめるために、四八団体は3/5全日をかけて学習、協議を行い、それらをまとめましたが、家庭科の男女共修に関する部分の要旨を抄記しますと左の通りです。

I 基本的考え方

1. 男女をとわず、母性の重要性とその社会的意義、家庭および養育に対する責任が男女双方にあることを認識するための有効な方策として、学校教育における家庭科の男女共修の実現をはからなければならない。

2. 女性の全面参加のためには、公的サービスの充実などの条件整備を指摘してきた。ところが家庭科の男女共修に対する世論や自覚が高まっているにもかかわらず、行政側の対応は消極的で、社会参加の条件もむしろ悪化している。

III 教育・訓練

2. 役割分担意識の克服に最も有効な学校教育の改善が特におかれている。……教育課程並びに教育内容に性差別を撤廃するための方策をもちこむべきである。

4. 「意見の提言2」の記述では効果がなない「学習指導要領から、男又は女の指定をすべて削除すること」を明記すべきである。

XI 婦人差別撤廃条約批准のための条件整備
2. 提言の線では甘いので、次のように改

めて頂きたい。

「中学校では、技術・家庭科における男女別指定領域をやめること。高等学校では、男女の体育単位の差をなくし、家庭科の男女共修をすすめるための教室の整備、教師の定員増などの条件を拡充すること。」

教組に対するアンケートその後

半田たつ子

春号で報告した後、三通の回答が届きました。大阪・岡山・愛媛です。その結果、回答数は延36、日教組・日高教ともに返事のないのは次の21府県となりました。秋田・岩手・宮城・福島・栃木・静岡・山梨・長野・新潟・石川・福井・岐阜・滋賀・京都・奈良・和歌山・兵庫・島根・山口・香川・徳島・東北・中部地方の成績が振るいません。京都・長野から返事がないのも残念です。36の回答の中には、「労働組合婦人部との共闘で、学習会と交流会をやる」の一行しか書いてない例や、会・会・にどんな情報を送れと要求だけする例もあり、教組の皆さん、しっかりしてと言いたいような気持ちになりました。

テキストは 改善されたが 教科書は……？

半田たつ子

NHK通信高校講座「高校家庭一般」の新しいテキストができました。80年度のテキストで最も問題と思われたのは「乳幼児の保育」で、「両親の特性を生かして分担するのが望ましい。例えば、父親は主として経済的責任を、母親は主として保育世話の責任をそれぞれ……子どもの健全な成長にとって重要なことである」という記述でした。新テキストでは「この世に生をうけた生命を保育することは、人間のつとめとして当然のことと考えられる。子どもの両親にとって、育児の責任は大きい。育児における責任は、①経済的責任 ②保育世話の責任 ③人格形成の責任 の三つが考えられる」となっています。従って、育児にかかわる三つの責任は「人間のつとめとして当然両親の責任」ということになり、改善されたといえます。

もっとも、全体を通して国や社会の責任を問わずに、個人や両親の心がけに責任を帰し

ている主張が読みとれること、献立例やすまいの写真などに、通信高校生の生活からかけ離れたものがあるなど、問題は残っています。82年よりの教育課程改訂を一年後に控えた今、テキストを改訂した誠意は認められます。その努力を評価し、まだ残る問題点と、その理由を記して、一層改善してほしいと文書を送りました。昨年の担当者、鈴木勇氏は、家庭一般から離れていましたが、「後任者に十分伝え番組制作上の参考にさせる」との便りが届きました。

こちらの求めることが全面的に通ったわけではありませんが、説得力ある発言は無視されない、ということを実感としてつかめました。あらゆる問題について、小さな一歩を進めることが、大きなうねりを起こす源となることを信じていると思います。

☆ ☆ ☆

ところが、いま教科書をめぐってどうすまい流れが渦巻いていること、ご承知の通りです。昨年一月「自由新報」が教科書偏向キャンペーンを始め、検定済み中学校社会科教科書の内容（愛国心、核家族、北方領土問題、日本の軍勢力、大企業批判など）変更を教科書協会に働きかけました。文部省は原子力発電の安全性について正誤訂正を要請するなど、55

年の「憂うべき教科書」を想起させます。80年十一月に出た自民党調査局政治資料研究会議の、その名も「憂うべき教科書の問題」は、今日の教科書を「共産党がせつせと教科書を作り、これを社会党が、つまり日教組が注文として売り歩き、自民党と政府が、金を払っている」と述べ、小学校国語教科書の表紙のいわさきちひろ氏の絵にすら「共産党の松本氏の細君の絵を使っている。これだけでも、共産党の教科書に対する支配力は明らか」というメチャクチャぶりです。

「教科書に国を守る気概、愛国心がない」と「教科書に関する小委員会」を設置し、文部省の検定ですら手ぬるいと尻たたき。文部省は奮起したのでしょうか。「新しい観点で家庭科をとらえ、男女共修に耐え得る」ことを目指して、会の世話人・会員が執筆陣に加わった教科書にも、検定にパスした後、再三改善意見・修正意見がつけつけられました。特に公害問題に神経を尖らせており、教科書偏向キャンペーンの影響を痛感します。

四月二十一日ラジオたんぱ「パッチリ7」に出演、クロワッサン四月二十五日号の取材を受けるなど、マスコミへの働きかけは積極的に続いています。（編集部）

すべての学校に 男女平等教育委員会 の設置を！

私の学校での設立経過

中嶋 里美

ここ四年間ばかり校務分掌で同和教育係をやってきた。私が部落差別に深い憤りを感じたのも、自分が女として差別されてきたという下敷があるからである。そして又十年近く前、大阪の部落の人たちと話合った時も、部落の人たちの考えの中にも男女の役割分業がかなり固定的にあり、男女平等を求める運動と合流することの必要を感じてきた。

同和教育の中で男女平等についても扱っていかうと思っただが実際は部落問題だけでもかなりやるべきがあり、男女差別の問題まで取り扱うことが出来なかった。昨年あたりから私の頭の中には男女平等教育係を設置したらどうだろうという構想があり、何人かの人に相談してみたが、それを打出す迄には至らなかった。しかし今年の校務分掌を決める時、校務分掌準備委員会から、校務分掌についての新設や削減についての意見が求められた。再び係を設けようという考えが頭をもたげ、

ちようど日教組の女子教育分科会できいてきたさまざまな意見に後押しされて、どうしても作ろうという気持ちになった。先ずどうして男女平等教育係が必要なのかという私の意見を書き、校内のすべての女子職員に配布し、集まってもらう日時も書込んだ。二回ばかり集まり、それがとてもいい集まりとなった。二月の初旬であったかと思うが、日頃夫の家事分担度などについて十分話合えなかったが、その時は、お互いの夫婦の問題などを卒直に出し合い話に花が咲いた。

女子職員には係新設の反対はなかったが、校務分掌の中でどう位置づけるかでいくつもの意見が出された。結論として分掌中に平等教育推進部というものを新設し、その中に同和教育係と男女平等係を当面おき必要とあれば他の係も新設出来るようにするという事になった。今後平等を求める教育はますます必要であるからという理由である。次にそのした部を新設するにあたっては、同和教育係とも話をする必要があり、私も係の一員であるが他の二名と話をした。同和教育係と男女平等教育係を並べることに抵抗を感じるという意見も出されたが、最終決定は職員会議でということになった。職員会議で何故この係が必要なのかということを、世界行動計画

埼玉県婦人行動計画、そして現在の教師の意識の実態から述べた。そして五名ばかりの女教師から、保育園に子供を預けていてもすでに男らしさ、女らしさが子供達にしみついていくこと、又テレビをみていても、そういうことが感ぜられること、国立大入試の論文には婦人問題のテーマがかかげられているが、学校で取り上げぬ限り問題意識すらないこと、女の解放を通じて男も解放される必要があること等が次々に発言され、もう本校では女を差別するような言辭が吐けないような雰囲気が一瞬作られた。多くの議論があったが、結論的にはこの係を新設するために今年準備委員会として活動するという事になり、名称は男女平等教育係設置準備委員会となり、男女三名ずつ合計六名で出発した。第一回は一九七五年国際婦人年の時NHKが取り上げた婦人問題番組（私も出演）をみて意見交換をした。この次は年間計画を立てるが、四月から始った教育テレビの「女性論の系譜」のビデオどりや、市川さんの「八七才の青春」をみに行こうなどと話合っている。いずれにしても係を設置しながら、教育の中で広げていくことは重要な意味があると思う。

是非全国の学校に作りましょう。

★家庭科共修の問題はいろいろな団体で取り組まれています。今号では、意見書を発表して大きな反響をよんだ日本弁護士連合会と、地域で地道な活動を続けている東京都中野区のグループに報告をお願いしました。

日本弁護士連合会による 「高等学校家庭科の女子 のみ必修についての意見 書」について

弁護士 金田純子

昭和五十一年六月、日本弁護士連合会人権擁護委員会の中に「女性の権利に関する特別委員会」が発足しました。この委員会の第二部会は日本に於ける女性の福祉、教育、税金等を男女の平等の見地から検討することを活動目標としています。そこでこの二部会では昭和五十三年六月二期目を迎えて教育問題を取り上げることにしました。

教育問題で男女平等の見地から一番目につくのは家庭科の学習です。とりわけ制度的に男女差別が明確にされていると思われる高等学校に於ける「家庭一般」の女子のみ必修の制度は十分検討すべき問題なので、これを取り上げ、二年かかって一つの意見書にまとめ上げました。これが昭和五十六年二月の日本

弁護士連合会の理事会で採択され、日弁連の意見書として日の目を見ることが出来たのです。

この意見書の内容は、(一)高等学校における家庭科学習の現れ (二)戦後の日本の教育と家庭科の変遷 (三)世界の動向とわが国の対応 (四)憲法二六条の視点からの検討 (五)憲法一四条の視点からの検討 (六)高等学校における家庭科の今後のあり方の六項目に分けて検討しました。その結果、一、高等学校における家庭科を女子にのみ必修とすることを速やかに廃止すること 二、家庭科の教科内容および学習方法を「家庭生活についての総合的理解を深め、民主的な家庭の建設と運営に必要な基礎能力を養うとともに、学習を通じて個人の尊厳と人間平等の感覚を体得させる」との視点から検討し、男女に必修かつ共修とするようつとめることとの提言をするに至りました。

いかに少ないかと云うことを痛感致しました。戦後日本は法律的には全く男女平等になったと云われますが、合理的差別は差別ではないと云う観点から現実に差別が存在するものはいくつかあり、家庭科別習も正にそれだと思えます。ですからこの差別は合理的差別ではなく憲法違反なのだと云う論拠をみちびくことが私達の課題でした。そして更に「女子のみ必修」の制度を廃止させれば男女平等で提言としてそこ迄にとどめるべきか、更に進んで家庭科の男女必修かつ共修にまでついで提言すべきかについては委員の中でも議論が分れました。しかし真の男女平等は、ただ機会が平等であればよい制度が平等であればよいと云うことだけであれば、今迄伝統的に男女の役割について社会通念的に考えられる思想にやはり流されてしまっているのであって、その思想の改革こそ必要でありなさねばならぬ仕事であるとの考えの下に第二項の提言が加えられたのです。

日弁連の理事会ではこの二項について議論百出しましたが、全員男性の理事会がこの二項を含めて日弁連の意見書とすることを採択したことは意義深いものであり、男女平等の考え方が大きく一歩ふみ出したと云う思いで一杯です。

家庭科共修をめぐる

中野区婦人セミナー第一期生

学校教育班

(仲田、中村、平山、増田、三浦、横田)

私達は中野区主催の婦人の意識向上と地域のリーダー育成を目的とするセミナーに参加したメンバーである。現在、学校場で「男も女も同じ人間であり、お互いが協力して社会を創っていく」という正しい視点での教育がなされているだろうか。

私達は、最初に、日本で使われている教科書を分析してみた。日本国憲法は、男女平等をうたい、教育基本法は、男女の教育機会や内容に差があってはならないと定めているにもかかわらず、小・中・高の教科書の多くは、性別役割分業意識を変えるどころか、かえってそれを助長するような記述が多いのに気付くとともに、学校教育の教科の中で顕著に男女の差別があらわれているのは、家庭科であると考えに至った。

家庭科を男女で履修しようという運動が、単に教科の男女同一学習ということに限らず、女子教育に対する偏見、女子の就労に対する社会的な差別、家庭内での固定化した分業意

識等の広い分野とさまざまにかかわっていることがわかった。「物質生産」「生命生産」両方とも男女協力して行なうものだ認識しなければならぬ。女性が経済的社会的に不利にならない体制をつくるのが、男性にも幸せをもたらす。中野区婦人問題実態調査、昭和五十五年三月によれば、中野区の女性は家庭科に対して男女とも本人の選択にまかせた四五・四割を占めている。価値観が多様化している中で、まず役割分担観を予・親から取り去らねばならない。そのためには選択ではなく、息抜きの時間としない男女の家庭科共修を実現させなければならない。家庭科の内容をもっと人が生きる、生活するとはどんなことかを中心にすえ、障害者・薬品・食品公害・愛と性・男性と育児・女性と職業・CMと子どもなどのテーマを盛り込んだ教科になっていくべきではないか。

学習していく中で、一般の人々の目が男女の役割分担を固定のものと思わず、必要に応じて男も女も選択できる日が来れば、共修の目的が達せられたと私達は考えていくようになった。現在のような状況では女性の経済的自立は難しい。そしてまた男性の生活の自立も難しいのである。真の意味での男女平等の教育を実現するためには、私達は主体的に

関わっていかねばならない。「自然にそうなる時代が来る……」といったものでは絶対にある得ない。

現実問題として、女教師が自分の家庭のために授業時間に穴をあけるといふ状況もある。その夫が家庭科共修を経ているならば何らかの手だてはあるだろう。家庭科の時間は受験には関係がないからと手を抜く状況もある。親・教師・生徒が、家庭科は人間教育として一番大切なものだと思えるならば、現在の体制でもそれなりの成果を上げることが可能であろうが、現在の私達の考え方を新らしく、より大きく改善していくためにも、教育行政を見直し、婦人の差別撤廃条約批准を促進し、行動計画を初めとする施策の方向や提言が実現されるよう働きかける必要を感じた。政治・経済の方向によって変動し、社会のひずみを受けやすい女性の一生を理解した上で、男女共に生きていく社会を築くことにひとりひとりの女性が積極的にいかねばならない。

――

――

傍さん中野区教育委員に
注目された中野区教育委員準公選で、会員の俵萌子さんは最高の得票で教育委員に就任されました。

奈良県へ要望書

奈良県婦人問題懇談会の提言については前号でお知らせしましたが、県に対して次のような要望書を送りました。

要 望 書

奈良県婦人問題懇談会の「提言」において、男女平等観にたった教育の推進がうたわれ、家庭科の男女共修にも触れられていることはたいへん喜ばしいことです。

この提言にもとずいて、男女平等のために積極的な施策をすめられますよう、特に次のことを要望いたします。

- 一、できるだけ早く奈良県行動計画を策定すること。
- 二、行動計画においては、できるだけ具体的な施策を明示すること。
- 三、特に家庭科教育については、中学校の「技術・家庭」、高等学校の「家庭一般」の男女共修（必修科目として、男女がいっしょに同じ内容の学習をする）の早期実現を明記すること。

（梶谷 典子）

世話人会報告

△二月二八日▽

- ◎81年度総会について
- ・80年度運動のまとめ
- ・81年度運動方針
- ・80年度会計決算・81年度予算
- ◎出版について
- ・「家庭科、なぜ女だけ」残部約140冊
- ・新出版物の題名「家庭科、男子にも」に決まる。

◎奈良県婦人問題懇談会の「提言」に関し、奈良県知事に要望書郵送

- ◎婦人問題企画推進会議意見書（二月一七日発表）への働きかけを検討（馬場洋子）
- △三月一五日▽春号発送作業をしながら――
- ◎報告

- ・国際婦人年の決議を実現するための連絡会報告（日本大会事後処理、組織、方針等）
- ・全国教育系学生ゼミナール集会で「差別撤廃条約と共修」について講義し、パンフ販売、ちらしを配布した。
- ・3/10、教育・教科書反動化に反対する国民集会に参加した。
- ・日弁連より、高校家庭一般女子必修についての意見書が発表され10部寄贈された。

- ・水戸市で高校教師の集会もたれ出席した。
- ◎協議

- ・四月四日総会の日程と仕事分担
- ・総会にかけける活動方針、決議案
- ・「家庭科、なぜ女だけ」の続編の題名、価格、内容、発行時期などについて。
- ・婦人問題企画推進会議意見に対する意見について原案が出された。（和田典子）

△四月四日▽総会のおとで――

総会で中学校の共修に重点を置くことで採択された決議文の検討と会報夏号の構成の検討、総会活動方針で決定した中学校「相互乗り入れ」の実施状況の調査方法、次回集会の日程が議題としてあがりました。

中学の「相互乗り入れ」実態調査は一ヶ所一万円以内で十一ヶ所調査することにし、北海道、福島、新潟、長野、群馬、埼玉、福井、岐阜、大阪、兵庫、福岡の世話人、会員の各氏に次の五項目についてお願いすることに決めました。①何を（領域）、②どの学年でやっているか、③共学か別学か、④別学のところは、その理由、⑤全面共学の学校があればその学校名

（青山和世）

大阪府、石川県の行動計画ができましたが、内容は次号でお知らせします。

企画推進会議の意見書 発表

遅れる後半期 行動プログラム

馬場 洋子

婦人問題企画推進会議（首相の私的諮問機関、座長・藤田たき氏）は、二月一七日「国連婦人の十年後半期に向けて」我が国が重点的に取り組むべき諸問題と、実施・実現すべき具体的方策を指摘した意見書を発表、鈴木首相に提出しました。

「基本的考え方」政策・方針決定への参加「教育・訓練」「雇用・就労」「母性の尊重」「家庭と育児」「女性の健康づくり」「老後における生活の安定」「農村の女性」「国際協力」「婦人差別撤廃条約批准のための条件整備」「目標達成への努力」の七項目からなります。

「基本的考え方」では、男女平等とあらゆる分野への女性の参加実現のために、「社会的慣習を含む女性に対するあらゆる偏見・差別を防止し、禁止し、解消するための具体的戦略を明らかにし、その措置をとることが必要」とし、特に、婦人差別撤廃条約批准のための条件整備は、国内行動計画推進の大き

な要であり、後半期における最重点課題、と述べています。

「教育・訓練」では「中学校・高等学校の家庭科における男女による取扱いの差異が、学習指導要領の改訂により若干改められた」が「この改定は不十分であり、今後一層、男女平等の観点からの改善が必要である」と述べ、「新しい男女の責任についての考え方に即した家庭科教育を目指し、教育内容の改善と教員の資質の向上について、教育行政関係者、教員、および家政学研究者等による具体的検討が必要である。中学校「技術・家庭」について、男子が家政系列の領域を、女子が技術系列の領域を一層履修することを促進するための具体的方法、および高等学校「家庭一般」について男子が履修することがより可能となるような具体的方法を検討し、その普及を図るべきである」と提言しています。

この提言は、婦人差別撤廃条約の批准のための条件整備の一項目にもあげられています。76年の同推進会議の意見書よりは前進と評価しますが、「具体的検討の方法」「具体的方法の検討」にとどまり、男女共修に向けての「具体的方法」が述べられていないことは残念でした。

この意見書を受けて、婦人問題企画推進本

部（本部長・鈴木首相）が後半期の行動プログラムを発表するわけですが、いまだ発表されていません（四月三〇日現在）。発表が遅れている理由に、校長協会家庭部会や全国家庭科教育協会の家庭科の男女共修反対という働きかけや、職業教育課家庭科担当者が外務省（差別撤廃条約批准のための条件整備として家庭科の男女共修に理解）に泣きの涙で男女共修にしては困ると訴え、外務省の人をあらんとさせた動きがあります。

家庭科の先生が共修反対の署名を行ったり、議員に家庭科の男女共修は時期尚早と陳情した県もあります。

その先生たちは、82年度からの男女共修実施は、施設設備や教員不足から一ぺんにできないことを強調していますが、やがて男子も学ばなければならなくなると、理念では反対していないのです。

82年度実施の新学習指導要領は、男子の履修可能は明記されているものの、実際には男女共修ができるとは思われないものです。そんな中での男女共修反対への働きかけは、男女平等実現をはばむ行為です。

家庭科を学ぶ子供たち、そして、よりよい家庭科をつくるため、目をもっと外に向けて下さい！

文部大臣の 国会答弁から

二月二十六日

土井たか子議員の質問に対して

(衆議院予算委員会)

◇……わが国では、高等学校におきましては女子に家庭一般という項目に四単位を必修とするということになっておりますが、この点が男の方と女の方によって若干の取り扱いが違っておりまして、文部省としましては、この程度の取り扱いの上の差異は許していただけるものと考えております。それで、更に諸外国の実情あるいは諸外国の本条約の署名後の対応等々を十分調査いたしまして、なお検討していくべきものは十分考えまして、批准については今後ともこれらの検討に基づいて対処をまいりたい、かように考えております。

三月十八日

林寛子議員の質問に対して

(参議院予算委員会)

◇……家庭に関する科目の男女による若干の

取り扱い上の差異は、わが国の社会の実情にかんがみまして、男女それぞれに応じました教育的な配慮に基づくものでありまして、この婦人差別撤廃条約との関連で問題がないかどうか、さらに諸外国の実情、また諸外国の本条約の署名後の対応ぶりというものを調査いたしまして、批准につきましては今後外務省とも協議いたしまして対処をまいりたい、かように考えております。

PTA全国大会で アピールを!

日本PTA全国協議会(東京都千代田区平河町二―四―一日本都市センター内)の大会が今年は八月二十七・二十八日の二日間、和歌山市内で催されます。

日本PTA全国協議会の夏の大会には、昨年一昨年もその前の年もアピールのピラ配りをしてほしいと話し合い、世話人や会員の方々を通じて予定していたのですが、郵便の遅配やお願ひしていた方の急用などでいまだ果たしておりません。

今年こそは、和歌山の大会では是非アピールのピラを家庭科の男女共修に関連の分科会等で配りたいと思いますが、残念なことに和歌

山県には今のところ会員がおりません。和歌山県近府県の方で、おでかけいただける方は、六月末日までにおはがきで名のりをあげて下さい。

(青山和世)

お 願 い

会費納入について

81年度の予算が総会で承認され、会費は年二五〇〇円に決定しました。前号でもおしらせしましたように、経費は増大しますが値上げはせず、前年度より納入率がよくなるものとして予算を立てています。確実に納入してくださいますようお願いいたします。

郵便振替(振替番号東京九一九一八九二)または十円か五十円の切手でお納めください。カンパも同じ方法で、いつでもいくらでもどうぞ。

入会勧誘について

会員がふえれば財政も充実し運動も強くなります。地域で、学校で、職場で、いろいろな集まりで入会を勧誘してください。

入会勧誘のためのちらし(無料)は事務局にあります。郵便でお申しこみください。

(編集部)